

室内で鉢物を育てる

春先は植木鉢を使って室内で植物を育てている人の相談が多い季節です。5月は平均気温も10度を超えて、ほとんどの植物が成長期に向かいます。春先に葉が落ちたり、何年も植え替えていない鉢物は植え替えをお勧めします。鉢物の生育が悪い原因は水の管理や肥料の与え方、置き場所など様々です。原因がよくわからない場合は土を新しいものに入れ替えてみてください。観葉植物の土など専用に配合された土にすると慣れない人も安心です。インターネットや本で育てている植物のことも良く調べてください。風通しに気をつけて適切に管理できると植物は気持ちよく育ってくれます。(きのした)

フデリンドウ

フデリンドウはリンドウ科リンドウ属の高さ5センチ～10センチの越年草で5～6月に野山の日当たりのよい所で花を咲かせます。漏斗状の青紫色の花を、茎の上部に1～10数個上向きにつけますが日があたっている時だけ開き、曇天、雨天時は、蕾になって大事な花粉を守っています。その蕾を横から見ると筆の穂先にそっくりなことからフデリンドウと名が付けました。リンドウというと秋の花というイメージがありますが、春に咲くリンドウの仲間もあり、小形なものが多いです。また高山に咲くものなど出会えたらうれしい花です。フデリンドウは越年草ですが、越年草とは夏から秋に芽を出し苗の状態越冬して翌年の春に花を咲かせ枯れてしまう植物です。

発芽率があまり良くなく年々少なくなっているそうです。白い花をつける品種をシロバナフデリンドウ、淡紅色の花をつける品種はトキイロフデリンドウというのですがまだ見たことはありません。

(いとう)



今月の便り



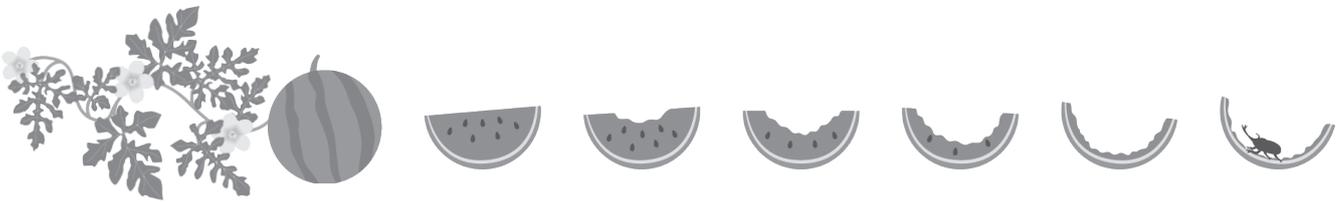
クレマチスの咲く庭

長い冬から目覚めたクレマチスの花芽の様子は如何でしたか？旧枝咲きパテンス系大輪早咲きの品種の枝は、冬越ししていても株元で鼠の被害にあって株元からポッキリ折れたりしたと思います。品種での違いはありますが4月中旬には地面からニョキニョキと枝が伸びてきて、その先に花芽をつけてきます。頂芽優勢で花芽をつけるので誘引もよく考えて横誘引が良いです。近年クレマチスの育種も進み、耐病性の強い、新品種の流通が始まっています。お店で購入される時は苗に付いているタグを良く読んで下さい。豪雪地帯の岩見沢では扱いやすいビチセラ、ヴィオルナ、ジャックマニー系などが主流で花型花色のバリエーションも多い品種がお勧めです。何と言っても咲き終わると冬前に株元から切り戻すだけで手間もいらず、肥料管理とイメージ通りの誘引でお庭の中も華やぎ咲かせて見るのも楽しい植物です。(たかはし)

*「今月の便り」 次ページへつづく⇒

スイカの原産地はどこ？

少し季節外れの話ですが、夏には欠かせない代表的な果物のひとつと言えばスイカがありますが、スイカの原産地がアフリカだということはご存知ですよね・・・？実は、アフリカ南部にあるボツワナ共和国がその起源になります。スイカの原種（現地では、TSAMMA MELON と呼ばれています）は、種類が多く数百を数えるといわれていて、現在も一定のエリアに自生しているようです。紀元前からこの地に暮らす人達は、古くから、貴重な水分として利用してきました。極度に乾燥した地域のため、安定した水源の確保が難しく、スイカを収穫し、確保しておくことで暮らしていくことが出来たようです。この原種スイカは、私たちが食べているものとは違って、中は白く、甘味はありません（ニガウリのような苦みがある）。現地のスーパーでは、日本と同じ甘いスイカ（現地ではハープ種と呼ばれています）が売られていて、町に暮らす人達の中で原種のスイカを食べる人はごく少数ですが、習慣的に原種スイカを食べる人達の平均寿命が、食べない人達と比較してとても長いことから、注目の食材となっているようです。（ながやす）



緑の相談コーナー Q & A

Q 私たち食べている大根は、根・茎・葉・実のどこを食べているのですか（・・・）

A 皆さんが通常大根として食べている太い部分は「茎」と「根」です。また、「葉」もよく食べられていますね。大根をよく見てみると上のほうは肌がよく、ここが「茎」にあたります。茎より下、大根の概ね 1/3 より下に小さな穴のような跡があります。これは側根の跡で、側根のある部分が「根」になります。また、「実」は、大根が成長していくと花が咲きますが、その花が終わると実がつきます。ちなみに、代表的な野菜を分類すると・・・

茎を食べているのは

ショウガ・アスパラガス・筍 など

根を食べているのは

サツマイモ・ごぼう・にんじんなど

葉を食べているのは

たまねぎ、キャベツ、レタスなど

花を食べているのは

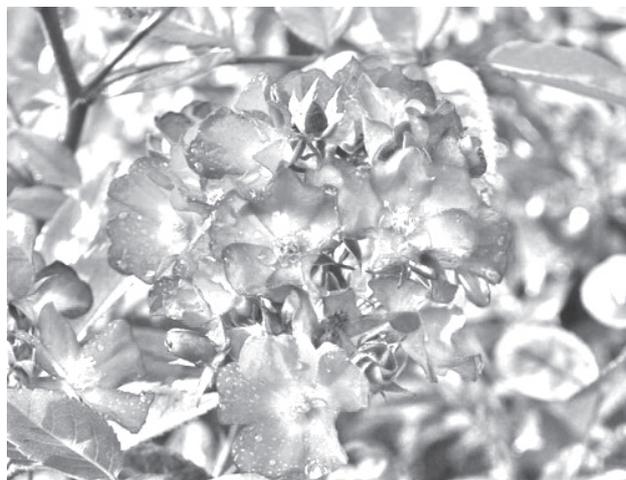
ブロッコリー・カリフラワー・ミョウガなど



ひとつき ひとバラ



文： 曾 根 浩 太
(いわみざわ公園バラ園)



第百十三回

ハイブリッドムスクローズ

パガニーニ

Paganini

作出国：ベルギー

作出者：Louis Lens

作出年：1989年

ハーディネスゾーン：Z6

繰返し咲き

交雑：Running Maid® × Rosa multiflora 'Nana'

皆様のお家のバラは越冬状況いかがでしたでしょうか。当園は今年いつも凍害を受ける品種が残っていたり、強いと思っていた品種が枯れこんでしまったりとなんとも考察し難い状況でした。越冬に関しては本当に難しいですね。今回ご紹介するのはひっそりとしたレア品種、Lens 作出のハイブリッドムスク、パガニーニです。このバラはバラ園の中でも目に留まりにくい場所に植えており、当園に何回も来たことがある方でも見たことがない人が多いのではないのでしょうか。駐車場入って左手のカフェまでの舗装道に車止めがあり、その脇に1株のように見せて、密植で3株植えています。ハイブリッドムスクには、大型になる品種が多いですが、パガニーニはそれほど大きくはならず、120 cm程度で収まる扱いやすい品種です。花ははっきりとした赤色が目立つ、一重から半八重の房咲き品種になります。耐寒性はそこそこあり、枝先は枯れるものの下まで枯れこむことはありません。病気についてもそこそこ強く、無農薬でも問題なく生育できます。交配親の Rosa multiflora 'Nana' はコンパクトなノイ

バラといった感じのバラです。一重の素朴な花がかわいいバラです。Running Maid は 200 cm程度の大きいシュラブで、パガニーニと同様に Lens 作出です。どちらも花色は淡い色ですので、この2品種からパガニーニのようなはっきりした色も出せるのだなぁと交配の奥深さを感じてしまいます。名前の由来はイタリアのヴァイオリニスト、ニコロ・パガニーニでしょう。悪魔に魂を売ったと呼ばれるほどの人物で、音楽史上最大のヴァイオリニストとたたえられている人物です。ネットで「パガニーニバラ」と検索すると、ニコロ・パガニーニという名前の別のバラがヒットします。こちらは剣弁高芯咲きの真紅のバラになり、なんとも情熱的な風貌です。対して、Lens のパガニーニは房咲きで花数は多いものの風景と溶け込む控えめな印象もあり、どちらのパガニーニを見るかで音楽に詳しい人なら流れてくる曲が変わるのかなと思ってしまいます。検索でも中々ひっかからないレア品種、Lens のパガニーニを探して、見つけてイメージに合う楽曲なんかを教えていただくと嬉しいです。

令和6年度 いわみざわ公園バラ園作業ボランティア『トムテ』のなかま募集

バラ園と一緒に育みませんか？

活動日 木・金曜日（定例活動日）8：30～

バラ管理以外に、宿根草や一年草の手入れもあります

参加には登録は必要です。詳しくはHPをご覧ください

今月の市民園芸講座のご案内



●5月12日（日） 13：00～15：00 芝生管理のポイント

料金：無料 定員：40名 講師：辻榮 三郎 さん

●5月18日（土） 10：00～12：00 ばらゼミ③

料金：無料 定員：40名 講師：古館 杏奈 さん

●5月19日（日） 13：00～15：00 小品盆栽の楽しみ方

料金：1,000円 定員：40名 講師：桑内 彦 さん

●5月26日（日） 13：00～15：00 Only One の寄せ植えづくり

料金：2,000円～（容器代別途）定員：10名

講師：高橋 かつえ さん

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話：0126-25-6111 ホームページ：<https://iwamizawa-park.com/>

※資料をご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申し込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3～4日位前までにお申し込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しくください。